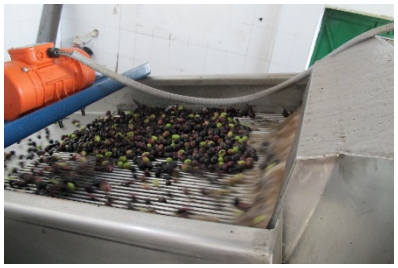
添付資料

Ⅰ．現地写真

① 環境・エネルギー・廃棄物処理分野 ＜1-1 医療廃棄物処理＞

ケニトラ県病院：2006 年に全国 21 カ所の公立病院に同型の破砕滅菌機（フランス製）が導入された。1台 43 万ユーロ。	ケニトラ県病院：チタン製のカッターにて廃棄物を破砕。同カッターは 2 年に 1 回取替えが必要。この他、グリース代は 3 か月 250 ユーロ。
ケニトラ県：病院・診療所では、赤：血液等の汚染ゴミ、黄：注射針等の危険ゴミ、緑：一般ゴミの3段階に分類することになっている。	ケニトラ都市部診療所：結核の喀痰塗沫検査室の廃棄物。陰性の喀痰容器は診療所内で焼却処理。
ケニトラ県地方部診療所（出産可能）：患者数は1日 60 人。分娩は1日1～4件程度。	ケニトラ県地方診療所：危険ゴミ（注射針等）を保管している戸棚。州病院が回収しないため、2年以上ここで保管。黄色の専用容器が不足する際は、ペットボトルを廃棄容器として代用している。

① 環境・エネルギー・廃棄物処理分野
＜1―2 農業廃棄物（オリーブ果汁廃液（マルジン）・搾油粕（グリニョン））の処理と付加価値化＞

オリーブをすり潰ぶすための伝統的すり潰し機	ペースト状になったオリーブを椰子繊維で編まれたマット（スクルタンに塗り、これを何段にも重ねていく。
プレス機で圧力をかけて果汁を搾り出す。	プレス機から外されたマット（スクルタン）に付着している乾燥グリニョン。乾燥グリニョンは販売され、燃料や飼料に用いられる
	
伝統的オリーブ搾油工場では、地下槽にオリーブ果汁を蓄積し、オイルとマルジンを分離する。	機械によるオリーブの洗浄
デキャンタ（横型遠心分離）	縦型遠心分離 （写真左：左側からオイル、右側からマルジンを抽出） （写真右：ペットボトル内はには初搾りのオリーブオイル）
3相型から排出された半乾燥グリニョン（水分量 50%以下）。沈殿池で水分を蒸発された後、販売される。	（左）グリニョンの蒸発沈殿池、 （右）昨年以前からのマルジンが残っている蒸発沈殿池

<table>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>フェズ下水処理場：モロッコ国内では
最大級の下水処理場</td><td>フェズ下水処理場：11 月～1 月の搾油シーズンは、
マルジンの影響により下水が赤茶に変色する</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td colspan="2">MVDIH（産業水利脱公害自発的メカニズム）を活用して 2014 年に造成されたフェズ郊外のマルジン蒸発池。
セブ流域内では唯一のマルジン蒸発池。池は2段になっており、上段（左）が満水となると、下段（右）に流れ込む仕組みとなっている。また、池が設置している土壌は粘土質ための不透水とのこと。</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>マルジン蒸発池にマルジンを運搬する車輌、
約 30 分間で 2 台が到着</td><td>マルジン蒸発池の廃棄：にマルジンを放流する車輌2台。</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>マルジン蒸発池を覆う油膜。
この油膜によりマルジンの蒸発が妨げられる。</td><td>緑のモロッコ計画により植林されたオリーブ。</td></tr>
</table>

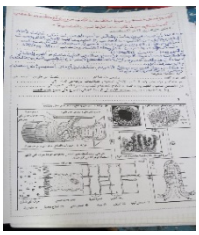
② 水の浄化・水処理分野

＜下水管未整備地域における下水処理＞

<table>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td colspan="2">ケニトラ郊外（側溝に生活排水やゴミが流入。窒素・リンの富栄養化が進み、排水は緑色に染まっている）</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td colspan="2">SEBAA ROUADI コミューン
（写真村落にはセプティックタンクが埋設されているが、2.4 万人のコミューンのうち 72 戸のみが対象）</td></tr>
</table>

③ 教育

＜地方部中学校の教育格差＞

<table>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>地方部の学校、ラバト・サレ州内においても、教師不足等から 2 クラスしかない学校、50km 範囲に学校が 1 校のみという地域も存在する。</td><td>モロッコ国立図書館：デジタル化ラボラトリー内の書籍用スキャナー（A1 サイズ、ドイツ ZEUTSCHEL 製）。
モロッコ王立リン鉱石会社による無償供与。</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>モロッコ・モハメッドⅥ美術館：館長が優先的にデジタル化すべきと考えている 13 世紀の手稿本。</td><td>GENIEで開発されたデジタルコンテンツ</td></tr>
<tr><td>  </td><td> </td></tr>
<tr><td>首都近郊の中学校：
左：GENIE2 で導入された PC と固定式プロジェクターが設置された教室と授業風景
右：教員が PC で作成した生物の教材</td><td>地方部の中学校
PCを指導できる教師が不足しているため、一般科目の授業には十分に活用されていない。</td></tr>
</table>

Ⅱ．面談記録（非公開につき非表示）